

ヒメムカゴシダ	<i>Monachosorum arakii</i> Tagawa	絶滅危惧 I 類
(環境省:絶滅危惧 I B類)		コバノイシカグマ科
選定理由	全国的に見ても産地が少なく、岐阜県でも極めて限られた場所に生育していて存続の基盤が脆弱である。	写真(荻山恒弘)
形態の特徴	常緑性のシダ植物。根茎は短く葉は叢生し大きいもので1m位で3回羽状複生。中軸に大きな無性芽を着けるのは良い特徴である。	
生態的特徴	山地の林下に生育している。	
分布状況	岐阜県では県南の極めて限られた地域に見られ、分布の東限である。	
減少要因	無性芽で繁殖するので個体数はある程度見られるが、林下の光条件の悪化等のためか面積は減少している。	
保全対策	生育地が植林地のため間伐等。林道整備の際には配慮が必要である。	
特記事項	オオフジシダにもよく似るが、葉の形や中軸の無性芽等で区別は容易である。	
参考文献	岩槻邦男. 1992. 日本の野生植物. シダ. P. 106. 平凡社. 東京. 倉田悟・中池敏之(編). 1997. 日本のシダ植物図鑑. 8. P. 13. 東京大学出版会. 東京.	

文責: 荻山恒弘